

## 船舶事故調査報告書

平成23年7月28日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行  
 委員 根本 美 奈

事故種類	衝突（灯浮標）
発生日時	平成22年6月29日 13時10分ごろ
発生場所	徳島県鳴門市撫養港 鳴門市所在の大磯埼灯台から真方位294° 2.1海里付近 （概位 北緯34° 11.6′ 東経134° 36.2′）
事故調査の経過	平成22年10月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	砂利採取運搬船 第八進洋丸、496トン 129569、共栄海運有限公司 66.00m×13.00m×6.80m、鋼 ディーゼル機関、735kW、昭和62年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 70歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和49年3月29日 免状交付年月日 平成22年9月3日 免状有効期間満了日 平成27年10月20日
死傷者等	なし
損傷	船体 なし 灯浮標 本体破損、チェーン切断
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、撫養港において、作業船に右舷着けして揚荷後、船長が、次の荷役地へ行くために出港を急ぎ、平成22年6月29日13時08分ごろ作業船を離れて同港を出航中、後進約2ノット（kn）の速力で右舷側からの潮流を利用して作業船のアンカーブイ付近を通過したが、潮流が予想以上に強く、13時10分ごろ工場の取水口の近くに設置された灯浮標に本船の左舷側が衝突した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東南東、風力 2、視程 約8km 海象：潮汐 下げ潮の初期 鳴門海峡の南流最強時は13時37分であった。潮流図によれば、本事故発生場所付近には、南流の最強時に約3.7knの潮流があり、本事故発生時は強潮時であった。
その他の事項	本船の出港配置は、船首に1人、船尾に2人であった。 船長は、本事故発生場所付近を月に2～3回航行していた。 船長は、通常、鳴門海峡の潮流の穏やかな転流時に合わせて作業を行っ

	ており、強潮時に出航した経験はなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、強潮時に撫養港を出航中、潮流により左方に圧流されたことから、灯浮標に衝突したものと考えられる。 船長は、次の荷役地へ行くために急いでいたことから、強潮時に出航していた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、強潮時に撫養港を出航中、潮流により左方に圧流されたため、灯浮標に衝突したことにより発生したものと考えられる。	